
Smile

暁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S m i l e

【Nコード】

N 7 7 2 1 N

【作者名】

暁

【あらすじ】

人が恋に落ちるのに、理由なんてない。

東京ライフに少々うんざりしていた男の日常が一変した日。

(前書き)

平凡な男子に訪れた、衝撃の出来事。

オフィス街は、夏だろうと冬だろうと関係なく、人々が忙しく行き交う場所。

都会なんて、コンクリートとアスファルトと無機質・無感動・無関心で出来上がってるんだ。

朝の地下鉄なんてさらにサイテーだ。希薄な人間関係を、無理にでもくっつけようとしているみたいに、毎朝ぎゅうぎゅう詰めにされる。

ケバイ化粧の女は、おっぱいが丸ごと出てそうな服を着て、鼻が曲がりそうな匂いを振りまいて、さも自分は奇麗だと思い込んでいる。錯覚だっつの。

その隣の頭の薄いオッサンは、そんな女の胸ばっか見てやがる。他に考える事ねーのかよ。

・・・まあ、女の胸なんて、見えて悪い気はしねーけどさ。俺も男だし。

ま。痴漢^{ちかん}呼ばわりされちゃたまんねーから、つり革に両手で掴まるわけ。通勤カバンをショルダーにしたのだって、他の部署のカトウが痴漢で掴まったからなんだ。

聞いた話じゃ、カトウは同性愛者ってやつらしい。裁判所で『女の尻には興味がない！』って大声で叫んだそうさ。

そんなん、普通は信じねーだろうと思ったら、何人か証言する『恋人』（もちろん男だ）が出てきて、無罪を勝ち取ったらしい。

ヤツは実に運がいい。しかし、この裁判でカトウが同性愛だとカミ

ングアウトするはめになり、なおかつ、浮気相手まで出てきたものだから、俺には到底理解できない修羅場しゅらばを経験したそうだと。

結局事の真相はというと、カトウが持ってたカバンが、ミニスカ女の尻にぶつかっただけだったそうだと。

まったく、自意識過剰な女が、世の中に多すぎね？まあ、そもそも痴漢行為を働く男がいるから、善良な俺等が迷惑するんだ。

まったく、ジョーダンじゃねーよなー。

毎朝そんな不満を抱えながらの、俺の東京ライフはもう三年目だ。彼女とは別れたばっかし、実家は田舎で仕事もねーし。コンビニが家から1時間ってどーよ？

一度は都会で働くのもいいだろうって親父が出してくれた。

それはまあいい。その内、両親を温泉にでも連れてってやるさ。

この日の俺は、特に機嫌が悪かった。原因は美代子だ。大学からずっと一緒だった彼女だが、アイツの浮気が判明した。

ほんの三日前だ。

アイツ、俺に散々ヴィトンだのグッチだの買わせておいて、すぐに質入れしやがって、その金で別の男に貢いでた。

その事を問いつめれば、『貴方より彼の方がずっとHが上手いもん』だとはざいた。腹の虫が治まるわけがない。

くそっ。

不機嫌なまま電車を降りると、階段を使って改札へ向かう。改札を抜けてバス停へ向かったところで足を止めた。

美代子のせいで金がない。

会社まで歩くしかない。くそっ。

始業時間まであと15分。今日は会議もあつた筈だ。

・・・間に合うのか？

焦りつつ駆け足になるも、大きな交差点の信号で必ず足止めを喰う。

ったく、何かの呪いか？ついてねーな！。

イライラしながら立っていると、一軒の喫茶店が目に入った。

大きなガラス越しに、スーツを着たオッサンがサンドウィッチをぱくついているのが見えた。『朝から優雅にモーニングかよっ！いいご身分だぜ。』

俺の機嫌はさらに急降下した。

中年サラリーマンめ。羨ましい。こっちは食事代も節約してるっつーのに。

自分勝手な逆恨みで、俺のイライラはさらにupする。

そこにウェイトレスがコーヒーを持って来たのが見えた。

僅かに体を傾け、優雅な仕草でカップをテーブルに置く。

顔はよく見えなかったが、肩に届くか届かないかのボブが、凄く印

象的だった。

心臓が大きく跳ねた。^は

俺の心臓の音が聞こえたみたいに、ウェイトレスがこちらに顔を向けた。大きな目が俺を見た。

綺麗な女だと思った。

俺の周囲から、音が消えた。

俺は、目をそらす事もできず・・・ただ、その女を見詰め返す。

次の瞬間、女がはにかんだように微笑み、小さく会釈をしたのが分かった。俺の心臓が馬鹿みたいに跳ね回る。これは一体なんなんだ？！

信号が青に変わっても、俺はその場から動けなかった。

ウェイトレスはもうそこにはいない。

俺は、アスファルトにくっついたみたいに動けなかった。

もう一度、彼女の笑顔が見たい・・・そんな馬鹿みたいな考えが頭から離れない。

ひょっとして、俺はいま・・・

・・・恋に落ちた・・・のか？

(後書き)

不器用な彼は、きっと、足しげく喫茶店に通うことでしょう。
声をかけられるかどうかは、彼次第。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7721n/>

Smile

2011年4月25日20時41分発行